

第五十九回
帝國議會
貴族院

抵當證券法案特別委員會議事速記録第五號

昭和六年三月二十日(金曜日)午後一時五
十三分開會

○委員長(子爵伊東祐弘君)

ソレデハ是カ
ラ特別委員會ヲ開キマス、今日ハ無盡業法
中改正法律案ノ御審議ニ移ラウト思ヒマ
ス、チヨット御諮リ致シマスガ、此條文ニ付
テ主ナ點ヲ政府委員カラ御説明ヲ願ヒマセ
ウカ

○政府委員(大久保偵次君)

御手許ニ無盡
業法新舊條文對照ト云フノヲ差上ゲテ置キ
マシタノデゴザイマス、ソレデ御覽ヲ願ヒ
マス方重ナル點ノ改正ガ判明イタシマス
ト思ヒマス、ソレニ付テ大體申上ゲタイト
思ヒマス、チヨット前ニ御斷リ的ニ申上ゲテ
置キタイト思ヒマス、割合ニ此全文改正ニ
ナリマシタ爲ニ、條文ノ數ガ多イヤウニ見
エマスノテゴザイマスケレドモ、實ハ過日
小川政務次官カラ大綱ノ説明ガアリマシタ
通り、今回ノ改正ハ條文ノ數ニ比ベテ見マ
スト極ク比較ニナラヌ程僅少ナノデアリマ
ス、其要點ハ無盡營業ヲ商行爲ニイタシマ
シタ點ト、ソレカラ營業ノ主體ヲ株式會社
ニ制限イタシマシタコトト、營業上ノ資金
ノ運用ヲ或ル點マデ擴張イタシマシタコト

ト、現在法律ニゴザイマス無盡收支計算簿
ト云フ極ク煩雜ナ帳簿ヲ作製スルコトヲ
要求イタシテ居リマシタノヲ、之ヲ省キマ
シテ之ニ代ル他ノ便法ヲ講ジマシタノト、
其他ノ點ハ此法律ノ大正四年ニ出來マシテ
以來、其後ニ銀行法、貯蓄銀行法信託會社、
信託業法等新ラシイ立法ガ出來マシタノ
デ、監督其他ノ便宜カラ新法ヲ採用イタシ
マシタト云フ點ニ止マリマスノデアリマ
ス、併シ一々條文ヲ弄リマス、其修正ヲ
要スルモノガ二十五箇條位ニモ出マス譯
デ、條文ノ體裁上餘リ一々ノ修正ヲ出シマ
スノハ體裁ガ悪イ、見憎イト云フヤウナ趣
旨カラ、全文ニ致シマシタ次第デアリマス、
大體ニ於テハ條文ノ數程ノ修正ハゴザイマ
セヌノデス、ソレデ御手許ニ差上ゲデアリ
マス新舊對照表ノ中デ、二重丸ニナッテ居リ
マスノハ現行法ト同ジデゴザイマス、從ッテ
別段御説明ヲ申上ゲル必要モナカラウト
思ッテ省略イタシタイト思ヒマス、ソレカラ
丸印ガ付イテ居リマスノハ現行法ト新ラシ
イ法律ノ書キ方ヲ眞似マシタ監督上ノ便宜
ニ出來テ居リマスノデゴザイマス、是モ大
シテ重要ナル點デハゴザイマセヌ、法律ヲ

新ラシイノニ寄セテ次第デゴザイマス、何
モ印ガ付イテ居リマセズ黒線ヲ引張テア
リマスノガ今度ノ修正デゴザイマス、今度
ノ修正ノ分ニ付キマシテ一應御説明ヲ申上
ゲテ置キタイト思ヒマス、其第二條ハ、無
盡ハ營業トシテ之ヲ爲ストキハ之ヲ商行爲
トス「ト云フ規定ヲ書キマシタノデゴザイマ
ス、營業トシテ營ミマス場合ノ商行爲ハ、
銀行保險法等ハ商法ニ規定ガゴザイマス、
信託業法ニ付キマシテハ信託業法ノ中ニ商
行爲トスルト云フ規定ガゴザイマス、無盡
ハ今マデ斯ウ云フ規定ガゴザイマセヌデシ
タケレドモ、大體今日ノ營業無盡ト致シマ
シテハ、之ヲ商行爲トシマシテ行キマス方
ガ色ミナ點ニ便宜ガアラウ、又其主ナルモ
ノハ申上迄モナク一般債權ノ民法デ行キマ
ス方ハ十年デゴザイマスガ、商行爲ニ行キ
マス債權ハ五年ト云フ消滅時効ニナッテ居
リマス、法定利率ノ方ハ民法デ行キマス
五分デゴザイマス、商法デ行キマスト六分、
其他利息制限法第五條ノ適用ヲ受ケナイト
云フ風ナ、商行爲ニ致シマシタ結果直接ノ
利益モアリマス、之ヲ條文ノ上デ無盡ト信
託業法ト列ベマスノハ、營業スル方ノモノ

ノ上カラ行キマスト頗ル便宜ヲ得ルト云フ
點デ斯ウ致シマシタノデゴザイマス、ソレ
カラ第三條ガ新タニ加ハリマシタ點デゴザ
イマス、其内デ資本金三萬圓以上ニシテ拂
込金額一萬五千圓以上「ト云フ條件ハ從前ト
變リマセヌノデゴザイマス、株式會社デナ
ケレバ出來ナイト云フ點ダケガ今度ノ修正
ノ眼目デゴザイマス、從前ハ個人デアリマ
スト又會社ハ合名合資デアルトヲ問ヒマセ
ズ營業スルコトガ出來テ居リマシタガ、時
勢ノ進運ニ顧ミマシテ株式會社ニスル方ガ
宜カラウト云フ趣旨デ之ヲ制限イタシマシ
タ次第デゴザイマス、此次ニ加ヘマシタ點
ハ第八條デゴザイマス、尤モ此第八條ノ中
ノ趣旨ハ現在ノ法律ニモゴザイマスデス
ガ、條文ノ體裁ト致シマシテ第八條ノ新シ
ク致シマシテ、認可申請ヲ致シマス場合ヲ
明カニ致シマシテ、貯蓄銀行法等ノ例ヲ參
酌イタシマシテ、定款ヲ變更シマストキニ
ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケナケレバナラヌ、事
業方法又ハ無盡契約約款ヲ變更スル時ニ
モ認可ヲ要スル出張所又ハ代理店ヲ設置セ
ムトスル時ニモ認可ヲ要スル、本店其他ノ
營業所ノ位置ヲ變更セムトスル時ニモ認可

ヲ要スル、ソレカラ其次ハ第十條ニナリマ
 ス、第十條ハ現行法ノ第九條ニ對應イタシ
 マス、大體ニ於テハ是モサシタル變化ハゴ
 ザイマセヌ、營業上ノ資金ノ運用ノ範圍ヲ
 少シ擴ゲマシタ次第デアリマス、其第一ハ
 國債地方債其他特別ノ法令ニ依リ設置シタ
 ル法人ノ債券ト云フ文字ニ變ヘマシテ主ト
 シテ産業組合中央倉庫ノ發行イタシマス産
 業債券ト云フモノノ買入ヲ認メマシタノデ
 アリマス、是ハ極ク安心ナモノデアリマス
 カラスカル運用ニハ適當シテ居ルト云フ趣
 旨デ加ヘマシタ、其次ニハ從前ノ法律ノ第
 三號デアリマス、掛金者ニ對シテ契約給付
 金額ヲ限度トスル貸付ト云フコトニナッテ
 居リマスモノヲ今度ハ其掛金者ノ中デモ既
 ニ拂込ミタル掛金額ヲ限度トスル貸付ヲ一
 ツ特ニ擧ゲマシテ、ソレカラ既ニ拂込ミタ
 ル金額ヲ超過イタシマシテ、契約給付金額
 マデ參リマス貸付ヲ更ニ四ト擧ゲマシテ第
 五號ノ既ニ拂込ミタル掛金額ヲ限度トスル
 モノハ十分ナ擔保ガアリマスカラ、是ハ此
 資金運用ノ制限ニハ無制限ニ出來ルト云フ
 コトニ致シマシタ、第四ノ無擔保ノ意味ノ
 方ノ部分ダケヲ前ノ法律ノ第二項、今度ノ
 法律ノ同ジク第二項ノ前項第四號ノ規定ニ
 依ル貸付金額ハ拂込資本及諸準備金ノ

總額ヲ超ユルコトヲ得ズ、要スルニ銀行ノ
 資本金積立金ト云フ風ナモノ以上ニハ斯ウ
 云フ無擔保ノ貸付ハサセナイト云フコトデ
 安全ヲ保障スルト云フ意味デ分ケマシタ、
 之ガ無盡業者ノ方ニ於テ非常ニ切望シテ居
 リマシタ點デアリマシテ、營業上ノ資金運
 用ノ範圍ヲ此點ニ於テ改正ヲ加ヘマシタ次
 第デアリマス、其次ハズト飛ビマシテ第
 二十條ニナリマス、之ガ現行法ノ第十八條
 ト十九條ニ對應スルモノデゴザイマシテ、
 現行法ノ第十八條ニ依リマスレバ「無盡業
 者ハ各無盡ニ付抽籤入札ノ都度其收支ノ計
 算ヲ帳簿ニ記載シ次回ノ抽籤入札ノ前日迄
 ニ之ヲ營業所ニ備ヘ置クベシ」其次ハ十九
 條「掛金者ハ無盡業者ニ對シ營業時間内何
 時ニテモ前半年末貸借對照表ノ閱覽ヲ請求
 シ又ハ其ノ加入シタル無盡ノ掛金者五分ノ
 一以上ノ同意ヲ以テ前條ノ帳簿中其加入シ
 タル無盡ニ關スル部分ノ閱覽ヲ請求スルコ
 トヲ得」、要スルニ利害關係ノ掛金者ハ自分
 ノ無盡ノ收支計算ノコトニ付キ帳簿ヲ見ル
 コトガ出來ルト云フ規定ニナッテ居リマス、
 是ハ無盡ノ如ク收支ノ計算ガ頗ル複雑ニ
 ナッテ居リマシテ、且又組合セ數ガ非常ニ多
 クナリマスト云フトナカク大キナ帳簿ガ
 茲ニ出來マス、實際上之ヲ要求スル人ト云

フモノハ誠ニ少イ場合デアル、極ク少イ場
 合ニ備ヘル爲ニ非常ナ費用ト繁雜トヲ掛ケ
 ルト云フコトハ實益ガナイト云フ注文ガ長
 イ間ゴザイマスノデ、ソレデ實際上ノ掛金
 者ノ利益モ保護スルト云フ點モ忘レマセズ
 ニ二十條ニハ「掛金者ハ無盡會社ニ對シ其
 ノ加入シタル無盡ノ掛金者五分ノ一以上ノ
 同意ヲ以テ其ノ加入シタル無盡ニ關シ命令
 ノ定ムル事項ニ付キ説明書ヲ交付ヲ求ムル
 コトヲ得」、全體ノ帳簿ニ致シマセズニ要求
 ガアリマシタ場合ニハ關係箇所ノ説明書ヲ
 交付スル、斯ウ云フヤウナコトニ折衷イタ
 シマシタ次第デゴザイマス、其後ノ方ニハ
 殆ド新シイ修正ハ附則迄ニハゴザイマセヌ
 積リデゴザイマス、附則ニ參リマシテ四十
 五條ハ「從前ノ規定ニ依リテ免許ヲ受ケタル
 株式會社以外ノ無盡業者ニシテ本法施行ノ
 際現ニ存スルモノハ本法施行後五年ヲ限リ
 仍其ノ營業ヲ繼續スルコトヲ得、本法中無
 盡會社ニ關スル規定ハ前項ノ無盡業者ニ之
 ヲ準用ス」、斯ウ致シマシタ、唯今株式會社
 タラザル無盡會社ガ三十四ゴザイマス、是
 等ノモノガ直チニ株式會社ニ變形スルト云
 フコトモ不便ガアルデアラウト思ヒマスカ
 ラシテ、五ヶ年間ノ猶豫期間ヲ置イタ次第
 デゴザイマス、ソレデ其次ノ四十六條ハ「從

前ノ規定ニ依ッテ免許ヲ受ケタル無盡者ニ
 シテ本法施行ノ際現ニ存スルモノニ付テハ
 第四條ノ改正規定ニ拘ラズ本法施行後五年
 ヲ限リ仍從前ノ規定ニ依ル」、第四條ハ資本
 金ノ制限ガ此關係トシテハ眼目ト致シテ居
 ル次第デゴザイマス、現行法ニ於キマシテ
 ハ法律施行前ニ存在シテ居リマス會社ニ付
 テハ其拂込金額ニ付キマシテ、資本金三万圓
 以上、拂込金額一萬五千圓以上ト云フ制限ヲ
 適用シテ居リマセヌデシタ、今其種類ノ株式
 會社ガ二ツダケゴザイマスガ、此モノニ付キ
 マシテモモウ僅カニ二ツバカリニナリマシタ
 カラ五ヶ年ノ猶豫期間ヲ置イテ資本金額制
 限ヲ矢張り適用シヤウ、是ダケノコトデゴ
 ザイマス、四十七條ハ四條ノ要件ヲ具備セ
 ザルモノガ此法律ノ要件ヲ具備スルコト能
 ハズシテオシマヒニナッタ場合ノ會社、業者
 ニ付テハ其契約ヲ引續イテ、現ニ有シテ居
 リマス契約金額ダケハ繼續スルコトガ出來
 ル、斯ウ云フヤウナ趣旨ニ致シマシテ結末
 ヲ付ケサセルト云フ風ノコトヲ規定イタシ
 マシタ次第デゴザイマス、其他ハモウ殆ド
 全部同ジデアリマス、五十三條カラ非訟事
 件手續法ヲ此處ニ引イテ參リマシタ次第デ
 ゴザイマス、是ハ現行法等ニモゴザイマス
 規定デゴザイマシガ清算人ノ選任、解任ニ

關シマス事件ハ會社ノ本店所在地ノ區裁判所ノ管轄トスルト云フコトヲ初メマシテ清算ニ關シマス裁判所ノ關係ヲ規定シタ次第デゴザイマス、大體以上ノ通りデゴザイマス

○委員長(子爵伊東祐弘君) 御質問ガゴザイマスレバ是ヨリ質問ニ移リマス

○松本照治君 一二御質問イタシタイノデアリマス、此改正ノ主ナ點ハ極メテ少イヤウデアリマス、其内株式會社ニ無盡業者ヲ限定シタト云フコトガ一番主ナ點ノヤウニ考ヘラレマス、此御趣旨ハ恐ラクハ主トシテ斯ノ如キ金融機關ノ主體ハ恒久性ヲ有テ居ルモノニシタイ、故ニ銀行、信託會社、保險會社等同ジク株式會社ニ限ルモノニシヤウト云フ御趣旨カト考ヘマスル、銀行、信託會社等ハ銀行法、又ハ信託業法ニ依リマスルト、餘程大キナ資本ヲ以テ居ル株式會社ニ限ルコトニナテ居ルヤウニ思ヒマス、保險業法デハ保險會社ダケハ十萬圓以上トカ云フコトデ、資本金額ノ制限ガ至テ低イノデアリマスルガ、是ハ明治三十二三年頃ノ確カ法律デアリマシテ、當時ニ於テハ相當ノ金額デアッタノデ、現在ハ勿論低キニ過ギルノデアリマスルガ、實際上ハ勿論大キナ金額ノ資本ヲ持ッテ居ルモノデナケ

レバ許サレテハ居ラナイノデアリマスルカラ、是亦實際ニ於キマシテハ、相當大ナル資本金額ヲ要求シテ居ルモノト云テ宜シイト思ヒマス、此案ノ第四條ニ依リマスルト、僅カニ資本金額三萬圓以下デハイケナイト云フコトニシテ居ルノデアリマスルガ、斯様ニ小サイ資本金ノ株式會社デハドウモ矢張り一二ノ人ガ個人營業ヲ、唯形式ダケヲ株式會社ニシテヤルト云フコトガ出來ルコトニナリマシテ、恒久性ヲ要求スルト云フ點ニ付テハ、甚ダシク遺憾ガアルカト考ヘマスルガ、或ハ單純ナ恒久性ト云フコト以外ニ、株式會社ニ限定スベキ外ノ理由モアッタノカモ知レヌト考ヘマスルノデ、ソレ等ノ點ニ付キマシテ伺ヒタイ、尙ホ此資本金額ヲモウ少シ大キクスルコトハイケナカッタノデアアルカドウカ、其理由ニ付テモ伺ッテ見タイト思ヒマス

○政府委員(大久保偵次君) 御答申上ゲマス、只今仰セノ株式會社ニ限定イタシマシタ趣旨ハ、大體斯ウ云フ金融業ノ取扱ハ、今丁度御示シノ例ニアリマシタ通りニ、銀行、信託其他ノモノニ付キマシテモ、株式會社ニ限定イタシテ居ル次第デゴザイマス、株式會社ノ斯ウ云フ風ニ金融業ニ適當シテ居リマスト云フコト、恒久性ノ上カラ見マ

シテモ適當ト思ハレマス、大體御趣旨ノ通りノ理由デゴザイマス、若シ附加ヘサシテ戴キマスレバ、株式會社ニナリマスト云フト、監査役ガ出來マシテ、今度ノ法律ハ監査役ニハ、銀行法ト同ジヤウニ、監査書ノ作成提出ヲ命ジ得ルコトニナテ居リマスノデスカラ、銀行等ノ實驗カラ見マシテモ大變ニ内部監査ガ能ク行ハレ、監督上ニモ都合ガ好イヤウニ思ヒマス、尙ホ株式總會ト云フノモゴザイマス次第デ、外部ニ比較的金融上ノ取引ノ多イ業態ト致シマシテハ、現今ノ經濟狀態ニ於テハドウモ株式會社デナイト云フト經營其モノカラ見マシテモ、又監督ヲ致シマス方面カラ見マシテモ殊ニ此帳簿其他ノコトニ行キマスト云フト、現在個人組織ノモノナジニナリマシテハ、先程申シマシタ通り、可ナリ株式會社以外ノモノモ現存イタシテ居リマス實情デゴザイマス、彼是紛雜イタシマシテ、其經營ノ計算ヲ明カニスルト云フコトニ於キマシテモ、誠ニ遺憾ナ點ガ多イノデアリマス、從ッテ監督上ノ不便ガアリマスシ、外部ノ利害關係者ニ對シテモ、自然十分ナ責任ヲ執ルト云フ上ニ於キマシテモ困難カト思ヒマス、彼是ノ事情ヲ參酌イタシマシテ、今日ノ經濟狀態デハ是非株式組織ニシタ

イ、斯ウ云フ趣旨デゴザイマス、尙ホ其資本金ノコトニ付テハ實ハ問題ガゴザイマスノデ、現ニ衆議院ニ於キマシテモ、資本金ヲ十萬圓以上ニ上ゲタラドウデアアルカ、斯ウ云フ風ナ修正意見ト云フヤウナモノモ現レタ次第デアリマス、幸ニシテ極ク少數デ倒レマシタ次第デアリマシタ、我ノ方ト致シマシテモ斯ノ如キ會社ガ相當ニ資本金ヲ上ゲマスト云フコトハ、其擔保力ヲ増加シマスル上カラ見マシテ、或程度マデ是認且ツ希望スル所デゴザイマス、併シ何分ニモ是ハ庶民金融機關トシマシテ、極ク中産以下ノ融通ニ便ニシマスル意味カラ、地方的ノ又從前ノ沿革カラ見マシテモ、組織ハ地方的ト云フコトニナテ居リマス、從ッテ實際上ハサウ大キナ資本モ必要トセズニヤル場合モ相當ニ多カラウト云フ風ナ點カラ見マシテ、且又現在二百六十ノ中ニ、此資本金ガ十萬ト假ニ致シマスレバ、百十二ト云フ風ナモノニ其要件ガ足りマセヌノデアリマス、殆ドマア半分近イモノガソレニ足ラナイ、斯ウ云フコトニナテ居リマス、長イ間ノ猶豫期間ヲ置キマスレバ、之モ漸次ニ上ゲ得ルカト思ヒマスルケレドモ、財界ノ現状其他カラ見マシテ、又此業態カラ見マシテ、更ニ其處迄上ゲナイデモ宜イヂヤ

ナイカ、但シ新シク設立スル者ニ對シテハ法律ニ三万圓以上トシテ、認可ノ標榜ト致シマシテ、是非サウ云フ風ナ方針ヲ執リタイ、斯ウ云フ風ナ趣旨ヲ實ハ其資本金ニ付テハ現行法ノ規定ヲ改メマセヌ次第デアリマス

○水上長次郎君 チョット今ノ御尋ニ關聯シテ御尋ヲ致シマス、現行法デハ資本金ハ三万圓拂込ガ一万五千圓、斯ウ云フコトニナッテ居リマス、唯改正デ「以上」ト云フコトヲ改正ニナッダケデスナ、「三万圓以上」、ドウデスカ之レ迄ノ拂込資本ハ、制限ノ拂込資金デ別段抽籤落札者ニ給付ヲ拂フコトガ出來ナイトカ云フヤウナコトデ、纏レヲ生ジテ居ルコトハ往々アルカノヤウニ想像セラレルノデスガ、サウ云フコトハ實際ドウデスカ、ゴザイマスデセウカ

○政府委員(大久保偵次君) 御答へ申シマス、現行法ハ御承知ノ通り此出資ノ總額ハ三万圓、其金錢ヲ以テスル拂込金額ハ一万五千圓ヲ下ルコトヲ得ズト書イテアリマスカラ、矢張此點ニ於テハ以上唯文字上ノ差デアリマシテ、全ク同ジ關係デゴザイマス、今日迄ノ實驗ニ徴シマスト云フト、會社ノ拂込ノ資本金ノ高ニ因リマシテ、其業態ノ良シ惡シト云フ風ナコトハ餘リゴザイ

マセヌデス、御承知ノ通り無盡ハ極ク古イ制度デゴザイマスケレドモ、營業的ニ所謂會社トカ其他營業的ニヤッテ來タト云フコトハ明治四十年來ノコトノヤウニ承知イタシテ居リマス、其當時ハ可成リ弊害ガゴザイマシタ、色ミナ不始末ヲ演ジタコトヤ弊害ヲ殘シタト云フコトハ多イヤウデゴザイマス、彼是ノ點デ大正四年ニ此法律ガ出來マシテ、舊來ノ無盡ナルモノノ庶民階級ニ必要ナルコトヲ勸メルト共ニ、惡イ方ヲ大分制限スルト云フコトデヤッテ參リマシタ結果、法律制定後ニハ漸次良好ノモノバカリガ殘リマシテ、尙ホ新シク計畫シテ參リマシタガ、其當時許シマシタモノガ百三十グライデゴザイマス、今日デハ二百六十ト云フヤウナ工合ニ殖エテ來テ居リマス次第デアリマス、大正五六年代デハ可成リノ弊害ヲ聽イテ居タガ、其後ニハ漸次サウ云フコトモ少ナクナッテ參リマシテ、昨今デハ又大藏省竝ニ地方官廳ノ検査監督モ相當ニ行ハレマスノデ、稍、庶民階級ニ付テハ一ツノ重要ナルモノト云フコトノ認識ヲ世間カラ得ルヤウニナリマシタ、昨日モ政務次官カラ説明ノアリマシタ通り融通シマス金額ハ法律施行ノ當時ニ於キマシテハ僅カニ四千万圓代デゴザイマシタモノガ、今日デ

ハモウ十億ヲ突破イタシマシテ、昭和四年末デハ十一億何ガシト斯ウナッテ居リマス、年々ノ給付金額モ二億ト云フ風ナ工合ニナッテ居リマス、サウ云フ風ニ此庶民階級ノ實際ノ金融ニ役立ツヤウナ工合ニナッテ居リマス次第デゴザイマス

○委員長(子爵伊東祐弘君) チョット御諮リ致シマスガ、モウ一回開カウト思ッテ居リマスガ、若シ御質問ガナケレバ今日ハ決議案モ上程ニナッテ居リマスカラ、延會イタシマシテ、二十三日ニ午後ニナルカモ知レマセヌガ、モウ一遍開キタイト思ヒマス、サウシテ採決スルコトニシタラ如何デスカ、ソレデ宜シウゴザイマスカ
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ
○委員長(子爵伊東祐弘君) 今日ハ是デ延會ヲ致シマス

午後二時二十三分散會
出席者左ノ如シ
委員長 子爵伊東 祐弘君
副委員長 松本 丞治君
委員 子爵前田 利定君
水上長次郎君
男爵渡邊 修二君

政府委員
大藏省銀行局長 大久保偵次君